

H28年10月

～患者図書室「やすらぎ文庫」は、開設して4年が過ぎました！～

10月に入り、窓から見える木々の葉が黄色に色づいてきました。「医療情報は病院にある図書室で！」を目指して来ましたが、まだまだ不十分なところが多く、多方面の方々に支えられている状況です。外来・入院患者さん、地域の皆さんは、「落ち着いて学べる場所」と言って利用して下さいます。近年の医療情報環境は皆さんのニーズと年代や環境に応じて変化しています。当院でも医師と話をする時に必要な知識を得ようと、様々な方法で学習される方が目立つようになりました。知れば知るほど興味を持ったり、不安になったりしているようです。自分の場合はどうなのか？ 自分ではどうしたいと思っているのか？ 意識していない思いや揺れる気持ちを持ちながら、主治医に相談するでもなく、かかりつけ医に相談するでもなく、過ぎてしまうことも多いようです。

今回は、利用者の素直な思いが治療につながったケースを紹介したいと思います。60代の女性が「尿アミラーゼはどうして出るんですか？」と疑問を持って来室され始めたのが今年の3月頃。通院の度、来室されていたので、本や医療情報サイトで支援をしていました。夏になって「今日は夫の事が気に掛かっている」と話し始め、「家族がどんなに言っても医者にかからないんです・・・5年経ちます」と心配されているので、お話の内容から検索をして医療情報を提供しました。その後、いよいよ歩行が不安になってきた男性は、提供した情報を持ち、妻と当院を受診。インフォメーションで対応した看護師と外来看護師の連携で医師がすぐ診察。諸検査の結果「良性の腫瘍」と分り、希望の病院で無事に手術を受けられました。「しっかり歩けるようになりました」と、奥様が笑顔で報告に来て下さいました。このように患者図書室が、利用される方と医療に関わる者が分かり合える、魅力的な場所になったらいいなあ・・・と思っています。

～年間貸出ランキングの紹介～

*当院では入院患者さん・ご家族、外来患者さん・ご家族、職員に冊数と期間の違いはありますが、全ての方に本の貸し出しを実施しています。今年の9月までの1年間の上位5点をご紹介します。

1. 嫌われる勇氣：自己啓発の源流「アドラー」の教え
2. 聖路加国際病院の愛情健康レシピ
3. ユマニチュード入門
4. 潰瘍性大腸炎：正しい治療が分る本
5. クロウン病・潰瘍性大腸炎の安心ご飯